

[成果情報名]夏秋どりに有望なイチゴ新品種「サマーフェアリー」

[要約]夏秋イチゴ新品種「サマーフェアリー」は四季成り性品種であり、果皮色は赤で、光沢がよい。多収性で、食味も良く、果実硬度も硬いため業務用の夏秋どり栽培に適する。

[キーワード]イチゴ、四季成り性、夏秋どり

[担当]徳島農総セ・農研・中山間担当

[代表連絡先]電話 0883-72-0239

[区分]近畿中国四国農業・野菜

[分類]技術・参考

[背景・ねらい]

徳島県の夏秋イチゴは、夏季冷涼な気象条件を活かして標高 700 ～ 1,000 m で栽培され山間地域の主要品目となっている。しかし、現在栽培されている品種は、夏の高温により奇形果、病害等の発生が多く収量が減少し問題となっている。そこで、品質に優れ、安定栽培できる地域に適合した夏秋イチゴの品種を育成する。

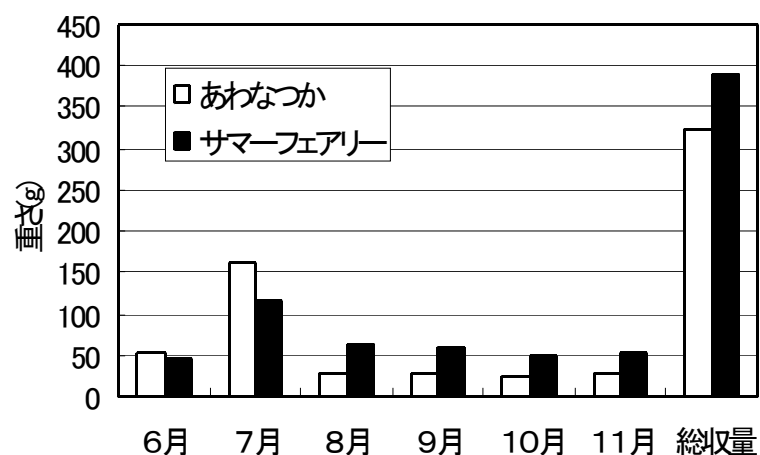
[成果の内容・特徴]

1. 本品種は四季成り性品種で、夏秋期にも開花・結実する。
2. 2001 年に、「徳系 5」(「みよし」×「久留米 48 号」)×「みよし」の実生選抜株)を子房親に、「アスカルビー」を花粉親として交配し育成した品種である。
3. 収量は、栽培品種の一つである多収性の「あわなつか」と比較して 6 ～ 7 月に少なくなるものの 8 ～ 11 月には多くなる。また、総収量が多い(図 1)。
4. 果形は円錐で形状がよく、果実の大きさは中である。果皮色は赤で、光沢がよい。果肉色は淡紅である(表 1、図 3)。
5. 糖度は「あわなつか」より高く、夏季の高温期には 9.4 % と低くなるものの気温の低い時期には 11 % 以上まで上昇する。酸度がやや低く糖度が高いため食味が良く、果実の香りはやや多い。果実の硬さは「あわなつか」より硬く、日持ち性および輸送性は良い(表 1)。
6. 草姿は立性と開張性の間で、草勢は強く、草丈はやや高い。葉色は黄緑で、小葉の大きさは大である。ランナー数はやや少ない(図 2)。
7. 2005 年 12 月に「サマーフェアリー」として品種登録申請している。

[成果の活用面・留意点]

1. 普及対象地域は、徳島県内の高標高地域とする。
2. 草勢が強く、草丈が高くなるので株間は 25cm 以上とる。
3. 株の生育状況を観察しながら充実したわき芽 2 ～ 3 芽を残し、他の弱いわき芽はかき取る。
4. 盛夏期には株の成り疲れが起こるので、初期から着果負担をかけないように適正な摘果を心がける。
5. 萎黄病に比較的強いものの炭疽病、うどんこ病には強くないため定期的な薬剤散布を行うなど防除に留意する。
6. 種苗の利用権許諾は、JA 阿波みよしが取得している。

[具体的データ]



試験場所：池田町西山
(標高830m)
定植：2005年4月14日
とこはる栽培
6.6g以上株当たり商品果収量

図1 「サマーフェアリー」の収量性

表1 「サマーフェアリー」の果実特性

品 種	商品果 の平均 果重(g)	B r i x (%)			酸 度	果実 硬度*	果 皮	果 肉	果 形	光 沢	食 味	香 り	輸 送 性	日 持 性
		6/21	8/13	10/3										
サマーフェアリー	10.4	11.4	9.4	11.4	やや低	0.29	赤	淡紅	円錐	強	良	やや多	高	長
あわなづか	9.8	9.5	8.5	10.3	中	0.25	赤	白	長円錐	中	中	やや多	中	中

糖度：平成17年調査 その他：平成16年5月11日調査

* 径5mmプランジャーによる貫入抵抗値



図2 「サマーフェアリー」の草姿
(撮影：11月7日)



図3 「サマーフェアリー」の果実
(一果実重：15 g 程度)

[その他]

研究課題名：新品種による夏秋イチゴオンリーワン産地支援

予算区分：県単

研究期間：2005～2007年度

研究担当者：新居 智、林 純二

発表論文等：品種登録出願（2005年12月8日）、出願公表（2006年8月14日）